村松麻由
原作：舞阪洸
キャラクター原案：ようた
落ちてきた龍王（ナーガ）と滅びゆく魔女の国
2
MFコミックス

これ……ですか!?
おいそれは何だ!?
第6話　一の砦の攻防Ⅱ
これは遠眼鏡と言う
遠くのものを大きく見せる魔具

contents

第6話
一の砦の攻防Ⅱ—001

第7話
勝利の後に…—033

第8話
風と怪力—063

第9話
奇襲と合流—093

第10話
一の砦の攻防、再び—123

Mayu Muramatsu
村松麻由
Kou Maisaka
原作 舞阪 洸
キャラクター原案 よう太
落ちてきた龍王(ナーガ)と滅びゆく魔女の国
2

へえっ
面白そうだな！
俺にも見せてくれよ!!!
やめろ
……あれ!?
全然大きく見えねえぞ
……
…当たり前
魔具だから
魔具とは魔法で使う道具
だからあなたには使えないし見えない

くそっ
結局
自分の目で
見るしか
ないのか……！

！
奴の動きが
止まった!?
シュー
シュー

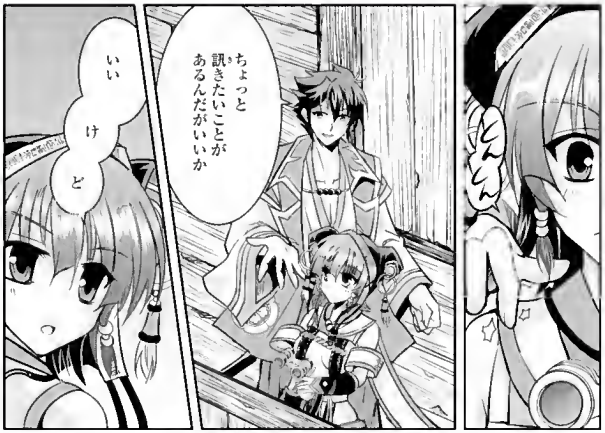
ガ!!
!!
うわぁっ
ズズズ…
に…っ
逃げろ
……!!
ゴゴゴ…

ガシャ

戦況は
こちらの方が
優勢に見える
……
だが…

なあ
ハリ…

…っと
精神集中して
木偶を
動かしてるとこ
声かけたら
邪魔
しちまうな


ちょっと
訊きたいことが
あるんだがいいか
いいけど

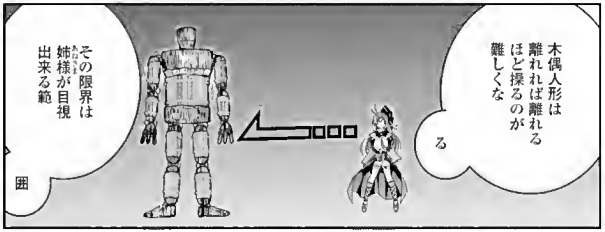
なあ
あの木偶…
操れる距離は
どのくらいなんだ？

ハリガンは
目視出来る
距離なら
動かせるような
ことを言ってたが
近くにいても
見えてないと
動かせないのか
!?

例えば
間に障害物が
あって
木偶を目視
出来ない
場合は!?
じっ

なんだよ!!
俺変なこと
言ったか!?
いえ
質問の内容が
的確で要点を
鋭く衝いていた
のに少し
驚いただけ
あ
そう
見かけよりも
頭がいいの
ね?

ね？
って…
どうして
そこだけ
疑問形だ？
あなたの
質問に答え
る


木偶人形は
離れれば離れる
ほど操るのが
難しくな
る
その限界は
姉様が目視
出来る範
囲

ただしそれは
操る場合はという
こと
操らなければ
適用例
外

それと
木偶との距離が
近ければ
見えてなくても
ある程度は操れ
る

ただし事態が
急変した場合には
ブン
対応が取れなく
なる虞もあ
る

こいつ…
何かを言わんと
して…というか
俺にわかるか
試してやがる
!?

操らなければ
例外か
――って
ことは…

こういうことか!?
操ることは出来ないが
動かすことは出来る…
つまり歩けと命じておけば姿は見えなくなっても延々と木偶は歩き続ける…とか!?
ズシャ
ズシャ

それと事態の急変ってのは
見えなくなったところで落とし穴に落ちたりしたら
直ぐに脱出させるのは難しい…とかか!?

驚い
た…
俺を
舐めるなよ!!

汚そうだから
舐めはしない
けど
そういう
意味の舐める
じゃねえよっ!!

そうだ
ね
ごめんなさ
い

は…？
あなたのことを
見くびっていたのは
たし
か
だから
謝
る

お!!
そ
そうか
わはははっ
いやまあ
わかって
くれれば
いいんだがな

増長し
た
誉めるか
貶すか
どっちかに
しろよ
…じゃあ
誉め
る

あなたは
馬鹿っぽくて
とてもすけべぇな
見た目に反して
頭がいいので
感心し
た
おまえ
誉めてるようで
実は貶してるだろ!?
そんなこと
ない
かなり
誉めて
る
私がここまで
誉めること
滅多にな
い

…じゃあ
どう
ぞ
誉められついでに
もう一つ
聞いていいか？
ここからが
本番だがな…

ハリガンは
今のより
小さい木偶なら

同時に複数体を
操れるのか!?

つまり
試したことは
ないという
ことか……

ちなみに
あの半分程度の
大きさだったら
何体操れる?

二体か!?

出来ない
ことないと
思
う

半分なら
……

四、五体は
操れ
る

ただし
複数体を
同時となると
意のままに
動かすわけには
いかなくな
る

なら
四分の一
程度の
大きさなら!?

それなら
十体…

いえもっと…
二十体くらい
は…

なら
俺くらいの背
いや俺の
半分くらいの
奴だったら!?
一体当たりに
必要な魔力が
少なくすむって
ことだな…
ということは
体高が小さく
なればなるほど

……
百やそこらは
いけると
思うけ
ど
そんな物を
動かして
どうする
気!?

百体の木偶
なんて予め
決めた単純な
動きしか出来な
い
それを戦に
使おうなんて
非現実
的

さっき
誉めたの
取り消
す
おいおい
何だよそれ!?
…でも
こいつ
なかなか
面白い奴だな
物わかりが
早いし
人を持ち上げたと
思ったら下げてみたり
あまっさえ
俺の弱みを握って
取引しようなんて
油断ならないとこもある…
ふふ…
ふはははは…

ズゴゴゴゴ
うるさいわっ!!
精神集中が乱れるだろうが!!
ああぁ 悪い悪い
今度邪魔をしたらここから叩き落とすぞ!

あなたやっぱり馬鹿だ
馬鹿っぽいくせに頭が良くてやっぱり馬鹿

あぁ 前にも似たようなこと言われた気がするな
へえ 誰に!?
えっとあ〜 誰に言われたんだっけ…

射てっ
射てーっ
ひるむな
――っ
ズシッ
ズシッ
くっ…
至近距離
からでも
止めることが
出来んかっ…
ゴロゴロゴロ
！

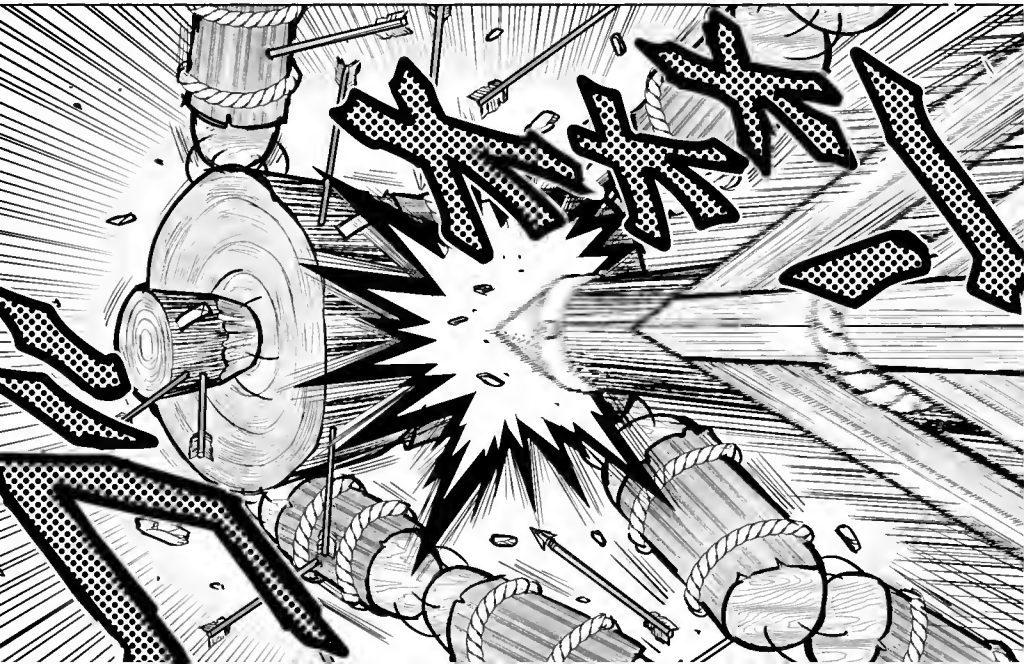
木偶に何かが接近して
る…
あっ
あれは…
ゴロゴロゴロゴロ
城門攻撃用の…
破城槌(はじょうつい)かっ!?
ゴロゴロゴロゴロゴロゴロゴロゴロ

おいっ
ハリガン!!
木偶を
下げろ!!
貴様 次に
吾の邪魔をしたら
ここから落とすと…

破城槌だ!!
奴らがあれで
木偶を叩こうと
している!!
なんだと
……!?

戻れ！
疾く戻れ!!
速やかに戻れ!!
ドドド

ゴロゴロゴロゴロゴロゴロ


ドドドド

ドオン

ワアアア

くそっ
立て！
立ち
上がれ!!
キロ
キロ
キロ
キロ

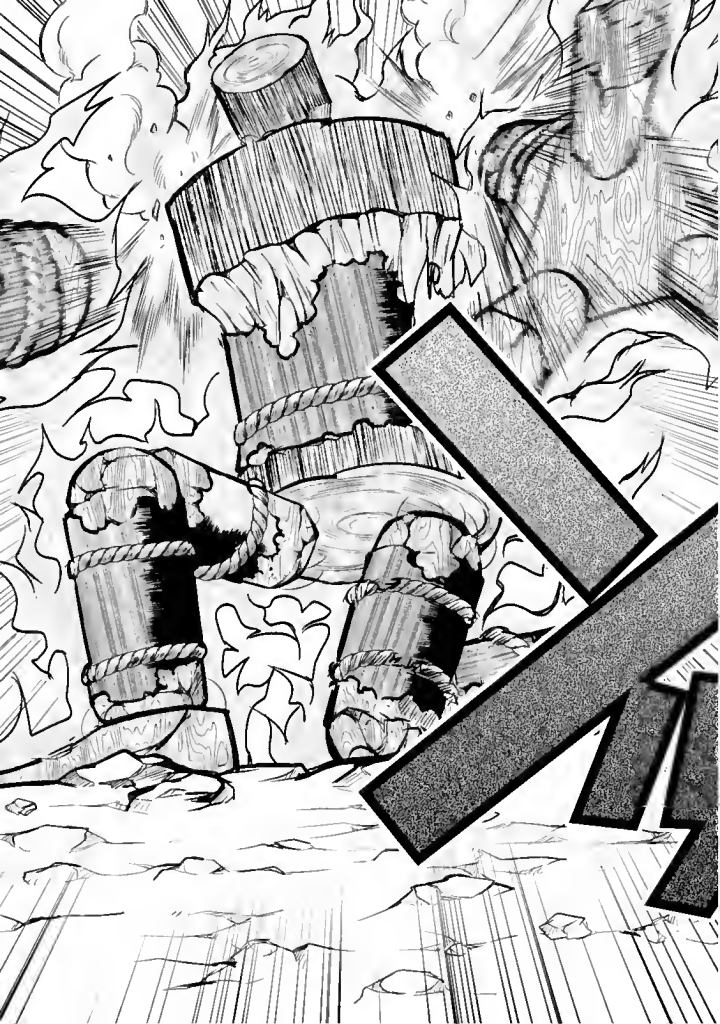
…ちっ…
駄目か…
レラ！
今の攻撃で
魔力回路が
損傷したようだ
はい
これ以上の
攻撃は無理だ
戻すことも
出来そうにない
わかり
まし
た
持って
て
おお!!
いいです
か
かまわん
やれ!!

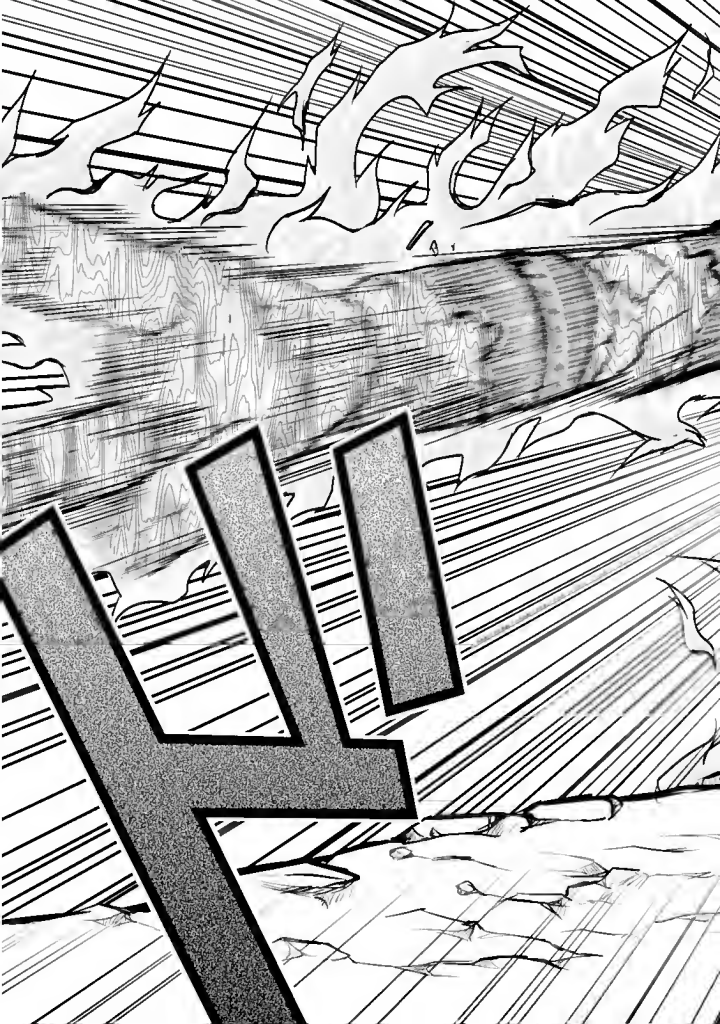
ボッ
ゴゥ
まさか
！
ハテ…

なるほど
こういうことも
出来るのか
なかなか
興味深いというか
もの凄い無茶苦茶というか
工夫次第
じゃ
もっと面白い
応用方法が
ありそうなんだが…
ゴ!!
オ
オ
オ
オ

～第6話おわり～

キシィ
キシィ
く…
来るなッ
……
ん…!?
さっきより
動きが悪いな…
よく気づいたな
魔力回路を
損傷したせいだ
致し方あるまい
！
カ!!
バッ





ガッ
に、っ
逃げろっ……
ドオオオン

第7話　勝利の後に…

と…
とんでもない
飛び道具を
持ってやがるな
あの一撃で
敵の部隊は
総崩れだ

一目散に
逃げ出すやつが
いるかと思えば

火のついた木偶に
矢が利くとは
思えないのに
まだ攻撃の手を
ゆるめないやつもいる

つまりどの兵も
正常な判断力を
失っている
もし俺が
この部隊の
指揮官なら
こんな時でも
適切に動かして
やるんだがな…
な
何だ
…!?

ハ
ハ
ン
ユ
こ…
ゴゴゴゴ
今度は
頭かッ!?

うわあああっ!!

カッ

ドゥッ

ウッ

ぐあああおお!!

ブロロロ

パチ
パチ
チッ

二百も揃えておいてあの態かよ
だらしねえにもほどがある

それに比べて…
こいつらは
この人数で
大したものじゃ
ねえか

魔法なんて
いう人に
非ざる能力を
持っていたと
しても
これほどの戦い
そう易々と
出来るものじゃ
ねえ……
ボロッ
これで最後だ

ドゴオオオ

ふらっ…
姉様！
ああ…
吾は大丈夫だ
あれも
なんとか
誤魔化せる
だろう

誤魔化す!?
ハリガン疲れてるところ悪いが
俺は気になることを流せないタチでな
あんたがさっき言った「誤魔化せる」っていう言葉だけどな
あれは木偶を爆発させたことを言ってるのか?
おぬし……
どうしてそう思った!?

そうだな…
あんた以前に
木偶人形の
予備は何体か
あるって
言ったよな？
ってことは
予備は
二、三体
……
多くて
五、六体って
とこだ

それだと
一体使えなく
なるのは
かなりの痛手
つまり今みたいに
木偶を燃やして
攻撃するのは
最後の手段って
ことになる

俺が思うに……
あんたたちは木偶の数が少ないことを
敵に悟られたくないんじゃないか？
ご明察のとおりだよ

あの突撃と爆発が予定の行動だと思わせられたなら
一体や二体燃えても吾ら魔女は困らない…と敵は錯覚してくれるだろう

思ったとおりか……
おぬし見た目以上に頭が良いのだな
あんたもそんなことを言うのか!?
俺はどんだけ阿呆に見えんだよ!?
気にするな
男は見た目ではないぞ中身だ

…そうだな
男は中身だ
女の場合は
見た目も
大事だがな
なに!?

つまり
あんたらは
中身も極上だが
見た目も
極上ってことだ

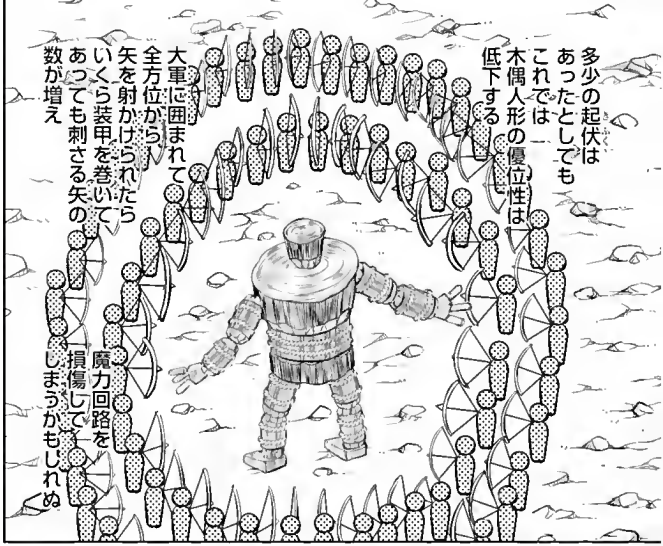
ふう

これはなんとも
高い評価を
龍王様(ナーガ)から
いただいたもの
だな…！
龍王様は
よしてくれ
様はっ
そして――
レラ
ケイ
セレナ

吾らは
引き揚げるが
おぬしたちは
見張りの
交代として残れ
わかりました
お任せ！
はい
ハリガン
残りの木偶での
追撃は
しないんだな？

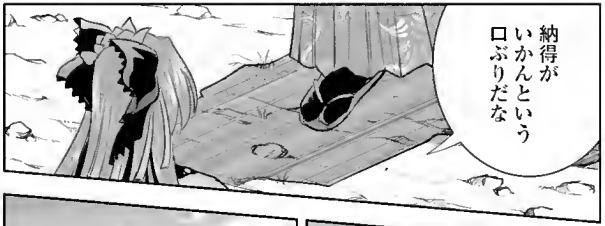
おぬしも何故かは
わかっておるのだろう？
まあ…あらかた
推測は出来るが
ここは
俺の常識じゃ
測れない
世界だからな

ここから先
人の土地は
割と平坦な
地形が続いている
森林や山地も
あるが 多くは
ただの荒野だ
つまり
人の軍は
大軍を展開
しやすい


多少の起伏は
あったとしても
これでは
木偶人形の優位性は
低下する
大軍に囲まれて
全方位から
矢を射かけられたら
いくら装甲を巻いて
あっても刺さる矢の
数が増え
魔力回路を
損傷してしまうかもしれぬ

数で
対抗出来ぬ
吾らは
専守防衛に
徹するしか
ないのだ
そう…
か…
まあそう
なんだろうな
……

だが
守ってばかり
じゃ
勝てない
守ることしか
出来ない者に
未来はない
この先
魔女たちが
生きるには
どこかで
討って出なきゃ
どこかで
勝負に出なきゃ
駄目だ――!!


納得が
いかんという
口ぶりだな

この世界が

あんたたちの
置かれた
状況が

だから
もう少し
時間が
欲しいんだよ
……

納得が
出来ないと
いうより
まだ完全に
理解出来ていないと
いうべきかな

そうすれば
あんたたちが
勝つ方法を
俺が提示
出来るかも
しれないぜ…？

まあ
期待しないで
待っていると
しよう

ところでクウ
ここにある木偶はあと一体だけだったな
そうです姉様
すると村にある予備からもう一体
運び込んでおく必要があるな…

アイスすまんがまた頼む

お…
おい…

まさか
おまえがここまで
引っ張って
来るのか!?
そうですよ!?
一人でか!?
手伝っては
もらいますけど
基本 運ぶのは
私の役目ですね
…そうか
わかった
じゃあ俺も
手伝うわ!
…と
言っているが
どうする
アイス?

ここまで
走って来るだけで
息を切らしていた方に
手伝っていただいても…
ぱ！
正直者
だな
おまえっ！
よく言われます
ごく
いや
そうじゃなくて
せっかく手伝うって
申し出たんだから
せめて
「ありがとう」くらい
言うべきじゃ
ないかな
っていうか
言ってほしい
ものだがな
そうですね
すみません
ペコ
いくらあなたが
森を半日走っただけで
息も絶え絶えだったといっても
いないよりは
いた方がマシ
ですよね
よろしく
お願いします

おっまえっ…
とことん正直者
だなっ!!
いたらいたで
役に立つどころか
足を引っ張る
可能性もある
わけですけ
ど
そして
おまえは
淡々と
背後から
刺すような
ことを…
客観的
事実を述べた
までです
が
…そこまで
言われちまうと
うぅ…
否定
できないん
だよな…
やっぱ
遠慮しとくか

いや…
吾からも頼みたい
娘たちはああ言うが手伝ってやってくれんかナーガ
アイスを手伝ってここまで歩いて来れば
周囲の地形やら森の樹相やら
いろいろと知ることが出来るだろう？
アイスご苦労だが
此奴に手伝わせてやってくれ

突然空から降って来たおぬしは存在そのものが迷惑なのだから
まあ気にするな
～第7話おわり～

木偶を失った後
ハリガンたち魔女一行は
数人を残し
一の砦から引き揚げた

そして戻った
翌々日の早朝

信じられない！

どうして
私が

男なんかと
一緒に行かなくては
ならないの!?

殺す
殺すわ
途中で
人知れず
こいつを殺す
千の肉片に
切り刻んで殺して
山犬の餌にするのよ
く…何を
言われようと今は
受け流すしかねえ
このままじゃ…
守ってるだけでは
魔女たちは
早かれ滅びてしまう
それが
お節介だと
しても
この戦
勝たせて
やりたい——
なっ
何よ
あんた…
頼んだぞ
ユウキ
今は
おまえの力が
必要なのだ
……

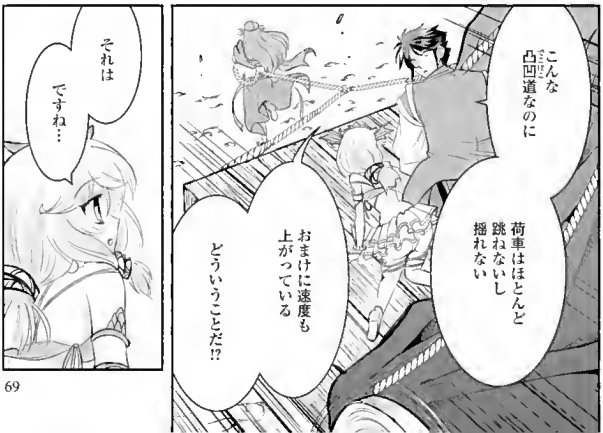
第8話 風と怪力

そして
なっ…
なんだっ…
このとんでもない速さは!!?
わ!!

なあ
あんた…
えっと名前
なんだっけ!?
そんなに
驚かなく
ても
ノノ…
ノノエル
です

ノノノエル？
ち…違うです
ノノエル…です
あ
ノノエルか
がちゃ

じゃあ
ノノエル
ちょっと
教えて
欲しいんだが


こんな
凸凹道なのに
荷車はほとんど
跳ねないし
揺れない
おまけに速度も
上がっている
どういうことだ!?
それは
ですね…

ユウキが
集めた風が
下から
この荷車を
支え
持ち上げて
いるのです
はぁ…!?
ユウキは
風の魔法の
使い手
なのですよ

レラによると
ユウキの魔法は
「衝撃を吸収
する緩衝装置」
としても
働いている
のだそう
ですけど

あいつ…

俺は――
他の人間が
非常識だと
感じることでも
割と素直に
認める質だ
だから
それがまた
周囲の人間と
軋轢を生んだりした

はてしまうと
記憶はなくなるとか
あの
分かり合えない苦しみは
二度と味わいたくない

くくっ…

なんだ…
俺も魔女たちと
同じような境遇
だったんじゃねえか

いや色々
すっきりしたわ
ありがとうな！

あれっ？
さっきの顔は
見間違い
だったですか？

あいつも
すげえな

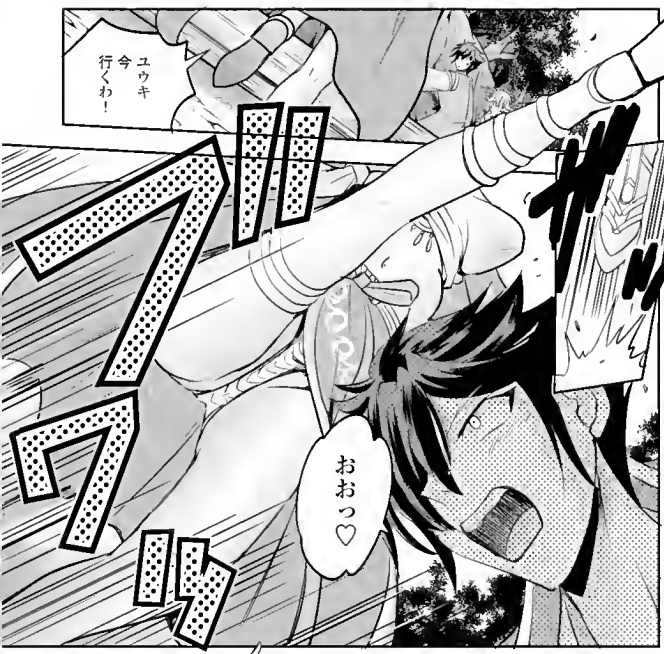
それにしても
魔法の助けが
あるとはいえ
本当に
これだけのものを
一人で運んじまうとは

どちらの笑顔が
この人の本質なのか
わからないですけども
悪い人間では
なさそうです

もうすぐ
着きます
ですね

もう!?
最初に歩いて来た時は日が暮れたっていうのに…
今日は少し早かったみたいです
アイス！
あれ見てあれっっ!!

うわっ!!
ガタッ


ユウキ
今
行くわ！
ワワワッ
おおっ♡

…って
見とれてる
場合じゃねえ
俺ってやつは…

アイス
砦の方角を
見て！

煙……！
砦が襲われているの!?

再び人の軍が
攻め寄せて来たのか!?

あそこに残った者たちは
どうなった!?

「あなたは
馬鹿っぽいくせに
頭が良くて」

「やっぱり
馬鹿」

ど…
どうしよう
アイス!?
もちろん
応援に行くわ
ユウキ
あなたは先に
砦まで飛んで!
あ うん
アイスは!?

私は
ナーガさんを
背負って
走ります

あんな奴
捨てていけば
いいのに

そんなこと
言っている
場合じゃ
ないでしょう
ユウキ!!
早く
行きなさい！
ご…
ごめん…

カタッ
ユウキ
まだレラたちが
無事なら
なんとか
逃げる時間を
稼いで！

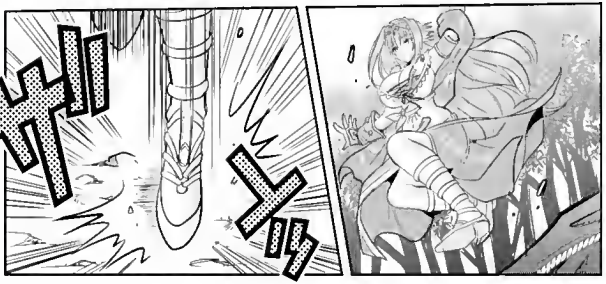
人間
殺しても
いいよね!?

いいけど
仲間を
逃がす方が
先決よ！
わかってる
ふわっ。

じゃあ
行ってくる！
なるほど
あれが
風を操る魔法
ってことか

頼んだわよ
ユウキ！
ヒュン
ヒュン
ヒュン

もう
見えなく
なっちまった…
さあ
私たちも
急ぎましょう


ザッ
ザッ

力の加護
地からの加護
血からの加護
天地母神の
導きにより
吾が血肉となりて
吾を支えよ
吾を護えよ…！

ゴゴゴゴ…
うわ…
なんて
闘気だ
……!!
さぁナーガさん
私に乗ってください
い…今のは
なんだ!?
これは
私の魔法
ですね
今ので
肉体を強化
したのです

ですので
どうぞ
遠慮なく
私の背中に
どうぞと
言われても……
魔女とはいえ
女の子の背中に
乗るのは……
ナーガさん
どうかしましたか？
あ…
いや…

急ぎたいんですけど!?
愚図愚図するのなら
あなたを殴って気絶させて足首を掴んで引きずって走ってもいいのですけれど？
ひっ…
乗ります
乗りますっ
乗せてください!!

ぱくっ
しがみついて…
いただくのは
いいんですが
そこは
ちょっと
困ります

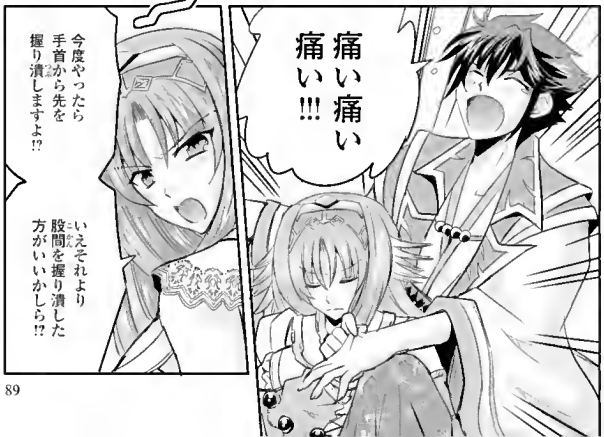
ナーガさん
両手
両手！

むにゅ♡
そ…その体勢で…？
力を入れないでえっ…！

あっ
わわわ
ばかっ
動くと余計に
力が入るだろうが!?
ちょ
駄目駄目
駄目
ですって
だから!
動くと
もっと…
ナーガさん
それわざと
やってますですね!?

いやいや
全然わざとじゃ
ねえからな
慌てて
間違えちまった
だけだからな
やっぱり
わざとですね
この人
これなら
いいだろ!?

ああもう
この忙しい
時に
ナデナデ


痛い痛い
痛い!!!
今度やったら
手首から先を
握り潰しますよ!?
いえそれより
股間を握り潰した
方がいいかしら!?

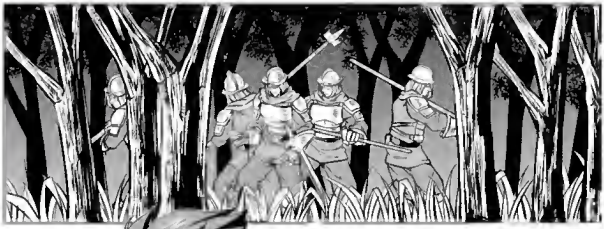
わ…わかった
わかったから
それより
緊急事態だ
早く行こう
な!?
あなたが
おかしなことを
しなければ
もう走り出して
います

こいつの
笑ってる顔
初めて見たわ
なんか
可愛いな

全力で
走ります
落ちても責任は
持ちませんからね

近道したいので
真っ直ぐに
森の中を
抜けますよ
ノノエルも
急いでね
では
行きます
タッ
うわ
ヨオオオオ
枝
枝
当たるぅ
!!

～第3話おわり～



敵だ

下ろせ
アイス

第9話　奇襲と合流

アイス
闘るぞ
あ
はい
先制攻撃
する
その辺に
落ちてる
石を拾え
今のおまえの
馬鹿力なら
軽く届くだろ!?
確かに今の私は
肉体が強化
されてますけど
馬鹿と言われるのは
ちょっと…
いいから
早くしろ!!
岩の仲間が
危ないん
だろうが!!
そいつを
投げて
敵兵を
かく乱
させるんだ

俺がやつらに
近づいたら
始めてくれ

ザザザザザザ

わかりました

ヒュン

あっ
なんだ!?
ドッ
あいっ
やるな……!
それじゃあ俺も…
ナイ
ッ

か…はっ!!

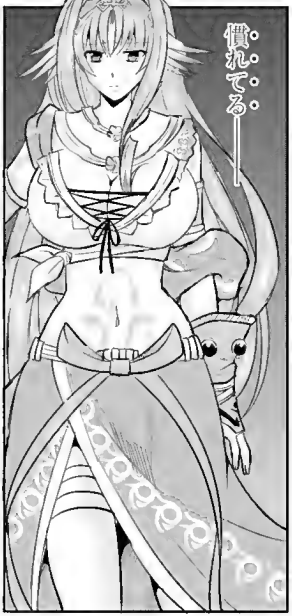
きさまっ
何者っ…
ぐえっ
うまい
これで
迂闊に
敵は俺に
近づけねえ
――残りは
あと二人
来ないなら
こっちから
行くぜ！

ズドン

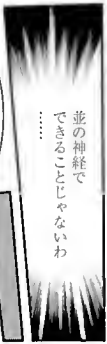
ひっ
ひいっ…
逃がさんっ！

あぁ…

ほっ


貫れてる――

そうしておかないと
後で
痛い目に遭うと
いうのはわかるけど


並の神経で
できることじゃないわ
……

アイス
ご苦労だったな

お蔭で助かった
あ…いえ大したことはしてません

いやいやかなりの戦力だったぞ
おまえ大した腕力だよな
脚力もだけどホント凄え

そ…
それはどうも…

あっ
ノノエルが追いついて来たわ

ちょうど良かった
敵が皆だけじゃなくその周囲にまで進出してるなら
三人まとまって行動した方がいいからな…

誰か
いるぞ!?
ドドド

魔女の仲間なら
近づけるな!!
くそっ
数が多すぎるっ…
水の盾と為し

水で絶て!!

ん!?
なんだこれ!?

本当に凄えな
魔法ってやつはよ…!
なんつう面妖な…けど凄えな

わ…私の魔法です
ナーガさん

ここはノノエルに任せましょう
今のうちに隠れてです!
ナーガさんもアイスも

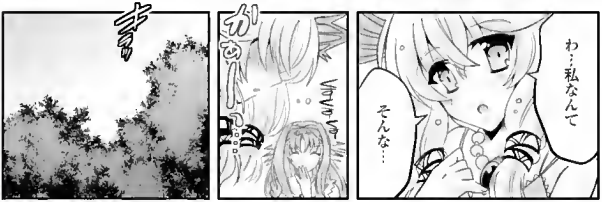
水を遣り
水の槍にて
敵を殺る
ザザザ
ザザザ
刺し
貫け

水槍
刺突
キィィィン

水
がっ
ふぐっ…

うわぁああ
!!!

いやあ
大したもんだ！
おまえら
本当に
大したもんだ
恐れ入ったぜ!!


わ…私なんて
そんな…
がぁ…
ぐぅぅ…
ぐぅぅ…

あ
ユウキが
戻って来ました
砦の中は
どうなっていた!?
あんたに
言われなくたって
報告するわよ
砦は…
人の軍の先遣隊が
寄せてきて
囲まれたみたい

包囲部隊は
何人くらいいる!?
斜面側に
五十人くらい

でそいつらに
火矢攻撃を
受けて
望楼が
燃えちゃった

斜面の下には
その倍…
ううん
三倍以上いた

レラたちは
どうした？
無事だと
思う
私が行った時は
元気だった
急いで
合流した方が
いいな
幸いこの辺りの敵は
逃げて行ったから砦の
門を開けても大丈夫だろう

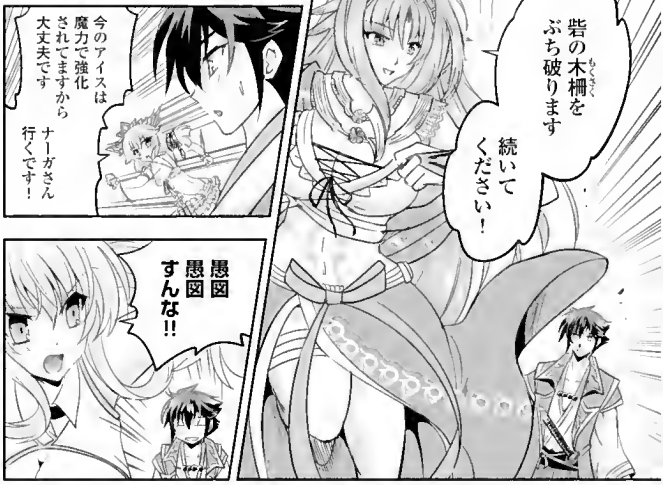
ああでも
中からじゃないと
開かないのか…
敵兵の中
呼んで
開けさせる
わけには――

一刻も早く
合流した方が
いいですか!?
無論だ

では
突入
しましょう

あ!?
突入って
……

バッ
お
おい!
どういう
つもりだ
アイス!!


砦の木柵をぶち破ります
続いてください！
今のアイスは魔力で強化されてますから大丈夫です
ナーガさん行くです！
愚図愚図ずんな!!

ああっもうっ
は…
速すぎんぞあいつら…

はっ
ゴ
ドドド

タタタ

なんてえ
蹴りの威力だ
人間破城槌
だな
アイスは

セレナ！
レラとケイはどうしたの!?
わ…私…はぐれてしまって…
ずっと一人でそこの小屋に隠れていて…
姿が見えないということは
敵に捕らえられた可能性も…
そんなのウソよ！さっきはちゃんといたんだもの!!

ん!?
アイス ユウキ ノノエル
ナーガさん!
無事だったんだな!
は〜〜もう駄目かと思ったよ〜〜〜〜!!

大きな音がしたので
人の兵が柵を壊して突入してきたのかと思い
来るのが遅くなりました
でもナーガさんたちで本当に良かった…
喜ぶのは後だ
状況は!?
――はい
敵が攻め寄せて来たのは一刻ほど前…
まず先遣隊が斜面を登ってきました
抵抗がないのを確認すると
砦を囲んで火矢攻撃を開始

それで
望楼が
燃やされ
た
ここまでが
半刻ほど
前のこ
と
今は私が
呪符で火球を
作り
それを撃って
応戦した
が
相手の勢いの
方が圧倒的で
押される一方だっ
た

良かった
あと少し
遅れていたら
危なかったのね
人の軍に
気づいて直ぐ
伝書鳩を飛ばし
たのだけど
それを見て
来たのではない
よ
ね!?
そうね
私たちが
出たのは
もっと前
だから
木偶を
運ぶ途中で
煙に気づいて
駆けつけたのよ

よし
逃げるぞ
いえ…
でも…
砦を捨てては…
現状ではここを守り抜くのは無理だ
ですけど…

なんて
無責任なこと
言うのよ！
っていうか
もしかしてあんた
カサンドラの間諜
なんじゃないの!?
落ち着け
今捨てても
直ぐに
奪い返せば
いいだろ!?

大丈夫だ
策はある
敵には一カ所に
集まって
欲しいんだ
そうすりゃ
撃退できる
――

～第9話終わり～

アクレイム部隊長殿!!
砦には誰の姿も見当たりません
どうやら無人のようであります!!
敵は退却したか
――であれば……
我々は一気に魔女の砦を占拠する!!
おお――っ!!

誰も
いません!!
無人です!
人影なし!

労せず砦を
占拠したぞ
これで恩賞は
いただいたも
同然…
よしっ
ライバッハ殿に
伝令を送れ
砦で
お迎えします
とな!

第10話　一の砦の攻防、再び

ナーガさん
できた

ちょうど頃合いかな…
タタタ…

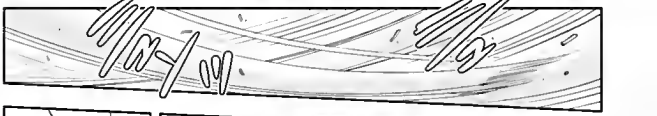
百五十を少し超える程度の部隊が砦に入りました

本隊は広場にいて
その他の兵は砦内を見て回っています

狙うのは
そいつらだな
当然 部隊指揮官も
そこにいるはずだ
聞いてたな!?
広場にいる
本隊が
攻撃目標だ
わかったわよ
偉そうに命令
しないでくれる!?
やるよ
レラ
ヒュルルル
ふわっ

あっ…
ガ
ちっ
いつものすけべなナニかさんじゃない！
どこかこの状況を
愉しんでる
——それどころか
一見厳しい表情に見えて
この人は頼もしいけど
キケン

でも
今は――
それを運んでいって
敵兵の頭上に降らせるんだ!!
ばかっ
あまり近づくな…



ほら!
言わんこっちゃないっ!
ピピ

俺のことはいい
やるべきことをやれ！
う…
わ…わかったわよ！
ヒウウウウ
ダダダ…
ナーガさんはそこで

炎と覇王と
非業の使徒よ
燃えて火となり
黙して死となり
行きて
活きて
逝きて
念じ
燃じ
然じ

炎の焔帝の
加護と火后
――!!

なんだあれは!?
燃えてるのか!?

魔女だっ
魔女の攻撃だっ…

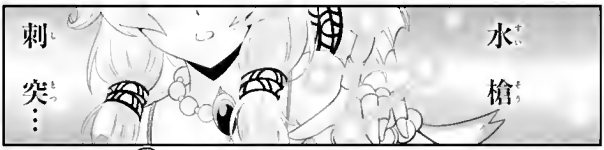
逃げろ
逃げろ
逃げろ――っ
ぐあっ
メシッ
た…助けてください
アクレイム様…
ええい
寄るな！
くそっ！
魔女に一杯
食わされたっっ
薄汚い手を
使いやがって
これが奴らの
やり口かっ!!

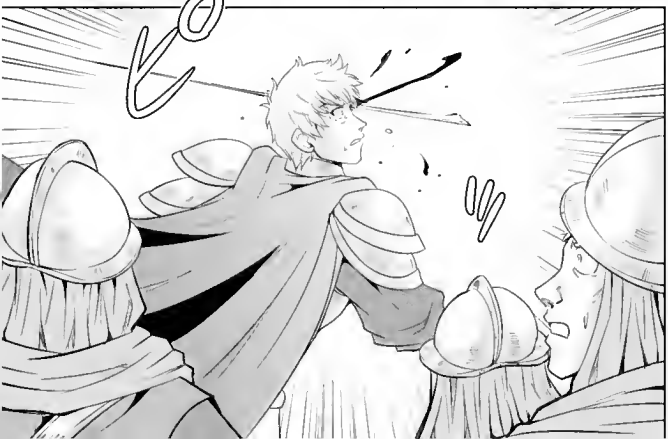
——勝手なこと
言ってくれてるけど
これは私たちの
やり口じゃないわ

貴様ら
そこを
どけい！

あなたたちと
同じ
人間の男の
やり口よ

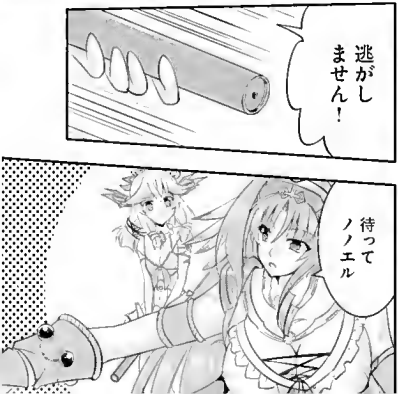
ア…
アクレイム様…


水槍
刺突…


ヒ

な…
なんだっ
…!?
ドバッ
ぐあっ
がはっ

うわああああ——!!


逃がしません！
待ってノノエル

自軍が
敗走したことを
伝える
生存者も
必要だと
ナーガさん
が

やった!!
人の兵たちを
やっつけた
――!!

あ…
あれは
ナーガさん…
スッ
ダーン!!
何をする
つもりですか
ナーガさん!

苦しんでいる奴らに止めを刺す
あんたらの攻撃をまともに食らったらまず助からねえ
だったら楽にしてやるべきだ
それともあんたらは人間の苦しみを長引かせたいか!?
わたし…
わたしもお手伝いします

つらい仕事になるとは思うが…
いいのか!?
ケイとセレナノノエルはそこで待っていて

アイス
軽傷の者がいたら選り分けておけ
はい
フッ
フッ
キッ
レラ
死者は放置したままだと腐敗して疫病の原因にもなる
燃やせるか!?

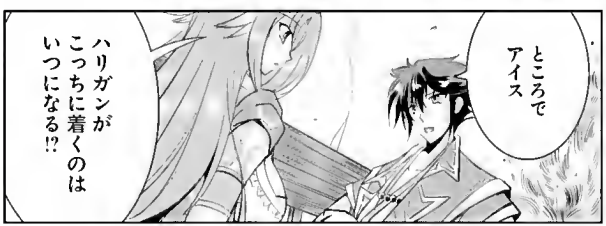
たぶん
平気
よしこれで
とりあえずは
ゴオオオオ…
片がついた
わけだな

それにしても
見事な策
でしたね
ナーガさん

いや
それほどじゃ
ない
むしろ俺には
今まで
おまえたちが
あのくらいのことを
やってこなかったと
いうのが不思議だ
はあ…

この世界の戦はもしかすると
馬鹿正直な戦い方しかしてないのかもな
敵の弱いところに自分の強いところをぶつけなきゃいけねえのに

孫子曰く
兵は詭道なり
兵は拙速を尊ぶ…だ
ソンシというのは誰ですか!?
キドウって何です!?
ん!?
いや…えーと誰だ!?
詭道はつまり戦ってのは相手との騙し合い…ってことなんだが


ところでアイス
ハリガンがこっちに着くのはいつになる!?

もうこちらに向かっているとは思いますが…
昼過ぎになるかと
そうか
だったらハリガンが来るまでこの砦で頑張るか
敵はもう一度攻めてくるのかな
いやあれだけ痛い目に遭ったらしばらくは来ないだろうよ

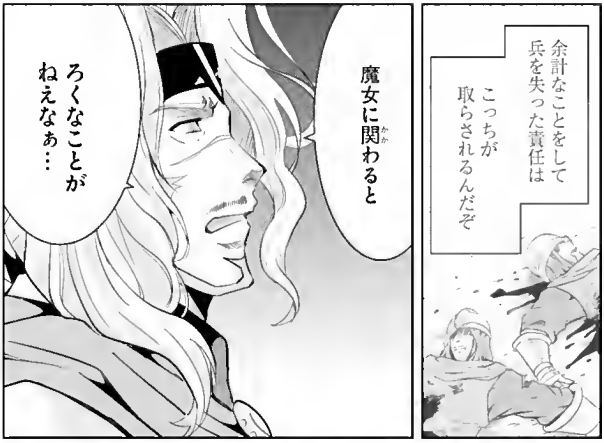
では人の軍の動きに注意を払いつつ
木柵の修理などを…
そいつは要らねえ
人の軍の動きはユウキが見に行っている
あいつが戻るまでここにいる者は休んでおいた方がいい

カサンドラ軍
本陣――

申し上げます
ライバッハ小隊長殿……
先刻無人の砦に入ったところ…
魔女に急襲され…

状況はわかった
で…
アクレイムはどうしたか!?

それが……
その……
……
ちっ
討ち死にしやがったか
あいつ
元々我らの作戦目標は
魔女の戦力を測ることで砦の占拠ではなかったのに


余計なことをして
兵を失った責任は
こっちが
取らされるんだぞ
魔女に関わると
ろくなことが
ねえなぁ…

何かおっしゃいましたか!?
いや…

おい
エインの砦まで戻るぞ

ヒュウウ～
砦の周囲に敵兵の姿はなし…
人の砦の方まで行ってみよう
……！

なに
あれ!?
なによ
あれ!?

大軍がエインに集結してる…
早くみんなに…ハリ姉に報せなきゃ……
ええっ
人の兵がそんなに!?
軍勢はまだ集結中…だったのよね？
ユウキ

うん
私が見た時点では
千人くらいいたと
思うけど
たぶんまだ
増える
それなら
攻めて来るのは
しばらく後だ
対応はハリガンが
来てからにしよう

ではレラと私は
今の内に血界を
張っておきます
血界って
何だ!?

それはですね
魔女の血で
張った
索敵陣の
ようなものです
ああ「結界」
みたいな
もんだな
便利なことが出来て
羨ましいわ おまえらが！
羨ましい
……
ですか!?
気味が悪いとは
思いませんか!?

力のある奴が
人を殴れば
脅威になる
知識のある
馬鹿が一軍を
率いれば脅威になる
要はその能力を
どう使うか次第で
人の役に立ったり
脅威になったりするわけだ

おまえらが特別で
特殊な能力を
持ってるからって
それだけで怖いとも
気味悪いとも
思わないな

ナーガさんっ…
え!?
え
え!!?

なんだこいつらの反応…
俺は当たり前のことを言ってるだけなのに
どうしてこんなに感心されるんだ…？
待たせたな

早速だが
ハリガンさんよ
一つ訊いて
おきたい
ここの砦を
人間に奪われては
不味いんだな!?
そうだ
ここを抜かれれば
カサンドラ王国の兵が
黒い森に入り込むのを
阻止
出来なく
なる

よし…ならば
こちらから
討って出よう
俺に指揮を
任せてくれたら
そのカサンドラ
王国軍とやら
しばらくこの砦に
近づく気に
ならない程には
叩いてやるぜ
～3巻に続く～

「黒森学園へようこそ」
今日は皆に
新しい仲間を紹介する
ハリガン
きゃー
転校生!?
かわいい女の子だといいなー!
リンネ
リンナ

ナーガ
こちらへ
男!!?
ハ…ハリガン
先生!!
どどっどーして
女子校に男子が
来るんですか!!?
ユウキ

ナーガは
吾が
行き倒れて
いるところを
拾ったのだが
記憶を
失っていてな

何もかも忘れて
いるので
危なくて一人に
しておけぬ
そこで吾の
目の届くここに
連れて来たのじゃ
む…

では
ナーガの
席だが…

空いてる
ところに
座れば
いいんだろ
それくらい
俺にもわかる

おっ
ここが空いて
……

ああ
そこは
アイスの
席だ
他の席に
してくれ

ふーん
病気か何かで
欠席なのか？
い…いや…
ケイ
これから
一緒に楽しく
やろうよ！
ガたっ
あたしケイ
よろしく!!
あっ
そうだ
ナーガさんを
レラの部活に
誘ったら!?
オカルト
研究会は
部長も
部員も
私一人で
十
分
レラ
ネーミング…

ナーガさん
学校を案内するよ
向こうが
体育館で
そっちが
……
わ…私…
ぶつかってません
です…
ノノエル
す…少し…
肩が触れて
しまっただけで
…
…でもね
こっちは結構
痛かったんだよ
……
落としまえ
つけな――!!!
【女番長】
アイス
【アイスの子分】
クウ
つけなー

おい
ナーガさんっ！
やめろ…
ビカッ
あ…んっ
そ…そこは…
むにゅ
すっすまんわざとじゃ…
いえいいんです別に…
ポッ
デレた!!
～おわり～

発行：株式会社KADOKAWA

落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 2

2014年3月31日発行 ver.1.0

著　者	村松麻由
原　作	舞阪洸
発行者	三坂泰二
編集長	池上昌平
発行所	株式会社KADOKAWA
	〒102-8177
	東京都千代田区富士見2-13-3
	03-3238-8745（営業）
編集	メディアファクトリー
	0570-002-001（カスタマーサポートセンター）
	年末年始を除く平日10：00～18：00まで

©Mayu Muramatsu 2014　Kou Maisaka 2014
http://www.kadokawa.co.jp/

※無断で複製・複写・データ配信などをすることは、かたくお断りいたします。

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
MFコミックス　フラッパーシリーズ
落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 2
発行日　2014年3月31日　初版第一刷発行